



年次報告書

国際環境NGO グリーンピース・ジャパン

2021



2021年を振り返って

2021年、グリーンピースは50周年を迎えました。数人で始まったグリーンピースが、世界55以上の国と地域で活動する国際環境NGOに成長できたのは、支援して下さるみなさまの支えがあったおかげです。改めて感謝申し上げます。活動に多くの制限をつけざるを得ない新型コロナウイルス感染症蔓延2年目という困難が続いた年でしたが、オンラインイベントなどを通してみなさまと一緒に、誕生から半世紀という重要な節目を迎えることができたことを大変嬉しく思います。また、グリーンピース・東アジアとの連携を強化するため、内部の組織変更を実施しました。これにより、世界各地で活動する国際環境団体としての本来の強みをより生かし、国境を超えて影響を及ぼす環境問題に対し、これまで以上に素早く、効果的な活動を進められるようになりました。

しかしそれは同時に、取り組まなければならない深刻な環境問題が、まだ残されているということです。

2021年は、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から10年を迎えた年でもありました。一度事故が発生すれば、現代の科学技術をもってしても、もとに戻すことはできないという事実を改めて痛感しました。

また、8月に公表されたIPCC（国連気候変動に関する政府間パネル）の最新報告書では、世界平均気温が産業革命前に比べ、すでに1.09℃上昇していると発表されました。

このような状況を目にして絶望してしまいそうになります。しかし、確かに危機的な状況にはありますが、決して絶望的ではありません。IPCCの報告書には、世界の平均気温の上昇を1.5℃に抑えることはまだ実現可能だというメッセージも込められています。そして2020年の秋、日本政府もようやく2050年カーボンニュートラル宣言を表明しました。この宣言を受け、日本社会でも一気に脱炭素社会の実現を目指す対策が動き出しました。

こうした国内、とりわけ経済界での変化を追い風に、より一層力強く気候危機対策を加速化させ生物多様性を守るために、再生可能エネルギー100%の循環型社会を目指して多様なキャンペーンを実施しました。特に、東アジアの他のグリーンピースのオフィス（北京、香港、台湾、ソウル）と密接かつ深く連携した結果、これまで以上のスピードで問題解決のための大胆な挑戦と成果を生み出した年でした。

3月から開始した日本の自動車産業の脱炭素化を目指すキャンペーンでは、12月、トヨタ自動車から2035年までにレクサスブランドについては全世界で化石燃料車の販売終了、その他ブランドについても西欧州では同年までに100%ゼロ炭素排出車販売を発表しました。

また、2月から開始したプラスチックキャンペーンでは、スターバックスコーヒー・ジャパンに対して、使い捨てプラスチックや紙のカップを前提とするビジネスモデルからリユースシステムへの転換を求めてきました。同社では、11月より都内でリユースカップの実証実験を開始し、CEOもリユースの重要性に言及を始めています。グリーンピースは引き続き全国規模でのリユースシステムの導入を求め働きかけを続けています。

市民と共に取り組んだゼロエミッション活動では、いくつもの地方自治体が市民の働きかけによりゼロカーボンシティ宣言が採択され、具体的なロードマップの作成に着手する環境を整えることが出来ました。

50周年というこのタイミングを、グリーンピース・ジャパンとして、過去を振り返るよりも、この先の未来を見据えるために使うべきだと考えています。科学的根拠に基づいた確度の高い提案と、徹底した現場主義を軸に、「行動するNGO」としてこれからも活動を続けていきます。

地球の恵みを、100年先の子どもたちに届けるためにも、これからもぜひ、グリーンピースと一緒に行動してください。



© Chieki Oshima / Greenpeace

S. Annesley

グリーンピース・ジャパン
事務局長 サム・アネスリー



8,369

寄付サポーター数

6,000*

イベント参加者数

295

ボランティア数

2,418,625

ウェブサイト
総閲覧回数

3,327

メディアで紹介
された件数

数字で見る2021年

グリーンピースの活動を支えてくださった多くの皆さまに、心より感謝申し上げます。

*約6,000人。通常のイベントの他、学校での講義、企業研修、記者向け勉強会、ライブ配信などを含みます。

活動報告

Climate & Energy

原発・化石燃料
に頼らない
2050年ネット
ゼロへの道筋



© Noriko Hayashi / Greenpeace

2021年、グリーンピース・ジャパンは日本のエネルギー政策を変える、重要な役割を果たしました。自動車産業等の大手企業に対して、化石燃料を基本としたビジネスモデルから脱却するよう働きかけました。また、地方自治体に対しては、再生可能エネルギー100%のための枠組みを確立させるよう、多くの市民と共に働きかけました。気候変動の影響を人々の日常生活と結びつけて可視化し、気候リスクは経済的かつ社会的リスクでもあることを強調しました。また、東京電力福島第一原発事故の放射線調査を継続し、さらに国際機関を通じて、日本政府の汚染水海洋放出計画を止めるよう求める取り組みを行い、原発に反対する市民の動きに貢献しました。

#DriveChange キャンペーン

私たちが使うクルマの99%は、いまだに排気ガスを出す化石燃料車（内燃エンジン車）です。世界規模で見ると、排出されるCO₂（二酸化炭素）の24%は、輸送機関に由来します。その中でも乗用車は45%と、最も大きな割合を占めており、気候変動を止めるために、クルマの脱炭素化がいかに重要であるかがわかります。

グリーンピース・ジャパンは、日本を代表する世界的な企業であるトヨタ自動車に、気候変動対策のグローバルリーダーになってほしいと、2021年3月より#DriveChange（変化へ発進）キャンペーンを開始しました。ソウル、北京、ドイツのグリーンピース事務所に加え、北米やオーストラリア、東南アジア地域で活動する環境NGOとも協力しながら、トヨタをはじめ、日本および世界の主要自動車メーカーに、以下の4つの取り組みを、大幅に加速させることを求めてきました。

1. 2030年までに化石燃料車（ガソリン車、ディーゼル車、ハイブリッド車を含む）の新車販売を停止する
2. 地球温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」に沿ってサプライチェーンを脱炭素化する
3. 製造過程における資源利用を減らして、特にバッテリーに使用されるレアアースにおいて、リユースやリサイクルを増やし、クローズドループシステム（廃棄物を含めて完全にリサイクル・再利用の仕組みで、新規材料を使わないシステム）へ100%移行する
4. 販売台数より移動手段提供サービスモデルで利益を得られるビジネスモデルへ転換する



また、映像制作会社との協力で作られた映像など、さまざまなコンテンツを通して自動車産業の脱炭素化の必要性を訴えました。イギリスの映像制作会社との協力で制作した「トヨタは、このような広告をいつ実現させることができるでしょうか？」や、日本の映像制作会社と共に制作した「気に入らない人たちのいつだって、なんだって気に入らない物語」などがあります。

さらに、調査報告書も発表しました。11月に発表した『自動車ランキング2021』では、市場の80%を占める大手自動車メーカー10社の気候変動対策と実際の行動を検証し、脱炭素化に向けた効果的なステップを踏んでいるかどうかをランキングにして評価しました。また、イギリスの研究機関 Cambridge Econometrics との協働で、研究報告『日本の乗用車の脱炭素化によるマクロ経済および環境への影響』を発表しました。自動車メーカーランキングは、国内の多くのメディアで広く取り上げられました。12月に開かれたトヨタ自動車の記者会見では、記者が豊田章男社長への質問の中で本報告書を引用し、質問を投げかけました。

メディア以外の数少ないオブザーバーとしてグリーンピースが招待されたこの記者会見で、豊田社長はトヨタの新たなEV戦略を発表しました。トヨタは長い間、EVにとっても消極的でしたが、会見では、低炭素車およびゼロ炭素車の必要性を述べ、会社のアプローチや販売車種・商品ラインアップに関する重要な変更を表明しました。

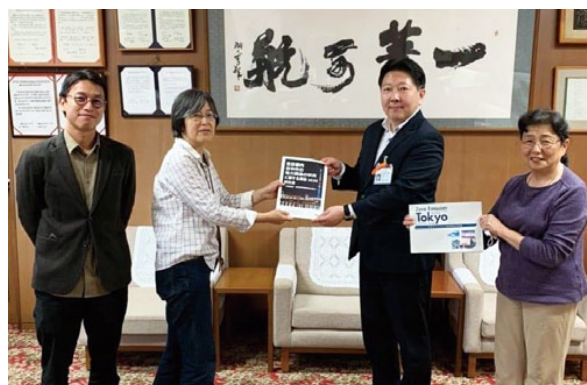
こうしたキャンペーンを通して、2021年12月、同社は2035年までにレクサスブランドについては全世界で化石燃料車の販売終了、その他ブランドについても西欧州では同年までに100%ゼロ炭素排出車販売を目指すを発表しました。世界で最も多くの自動車を販売している同社は、今後一刻も早く、すべてのブランドについて化石燃料車の販売終了の目標を公表する必要があります。

日本の大手自動車メーカーの脱炭素に向けた行動はまだ非常に不十分です。2022年も継続する本キャンペーンで、真の脱炭素を実現し、21世紀にふさわしい自動車を提供するよう、引き続き働きかけ続けます。

市民と共に地方自治体をカーボンニュートラルに！（ゼロエミッションキャンペーン）

2020年9月にグリーンピース・ジャパンが立ち上げた、気候変動を抑えるために行動するコミュニティ「ゼロエミッション東京を実現する会」は、2021年も多くの市民が積極的に参加をしました。港区、調布市、狛江市、中央区、新宿区、北区、江東区、墨田区、中野区、杉並区、府中市、町田市、目黒区では、参加者の活動が、それぞれの自治体のゼロカーボンシティ宣言につながりました。とくに港区では、議会に港区内の建築物の再エネ調達や省エネを求める請願を何度も提出し、区内の電力を再生可能エネルギー100%とする「MINATO再エネ」施策につながりました。

2021年からは、名前から「東京」を削除して全国の市民の参加を可能にしました。北は北海道から南は沖縄県まで、2021年末時点でFacebookグループの参加者は1,000人、より活発な Slackグループには500人が参加しています。長野県が2021年4月末に発表した温暖化対策計画の2030年温室効果ガス目標は48%削減に留まっていたましたが、ゼロエミッションを実現する会参加者による強力なキャンペーンの結果、県は2030年温室効果ガス削減目標を60%に引き上げました。



中野のチームとともに中野区長と面談しました

また、7月の都議会議員選挙という機会を最大限に活用し、『東京都の再生可能エネルギー100%シナリオ～グリーン・リカバリーによる脱炭素化ロードマップ～』を環境エネルギー政策研究所（ISEP）と発行し、大都市東京でも再生可能エネルギー100%の未来は可能であることを示しました。

- ・ 6月：東京都議会議員選挙の候補者アンケートを実施し、集計結果を公開
- ・ 6月：報告書『東京都の再生可能エネルギー100%シナリオ～グリーン・リカバリーによる脱炭素化ロードマップ～』環境エネルギー政策研究所（ISEP）と発行
- ・ 6月：東京都議会議員選挙に当たり、気候危機回避のための選挙アクションガイドを作成

- ・ 6月：東京新聞全面広告：海面上昇と気候危機のリスクへの関心を高め、気候アンケート結果を拡散
- ・ 10月：衆議院選挙候補者への気候アンケートを実施し、結果をウェブ上で公開



あと4年、未来を守れるのは今

2021年は、多くのNGOや生活協同組合などと協働した一年でもありました。日本のエネルギー基本計画案のパブリックコメントの機会をとらえて「あと4年、未来を守れるのは今」キャンペーンの運営団体として署名活動やパブリックコメント提出を呼びかけるキャンペーンを展開しました。同キャンペーンの賛同団体は228、署名数は27万4,830筆にのびりました。

議題	自民党	公明党	立憲民主党	日本共産党	沖縄県民の会	国民民主党	れいわ新選組	社民党
気候変動対策	×	××	○	○	××	××	△	○
原子力政策	××	×	△	○	××	△	○	○
石炭火力発電	××	××	×	○	××	××	○	○
再エネ	×	×	○	○	×	×	○	○

「あと4年キャンペーン」による評価

2021年はまた、東京都議会議員選挙、衆議院選挙の年でもありました。「ゼロエミッションを実現する会」の参加者の協力を得て、候補者に気候変動についての質問をし、回答をWEBサイトで公開しました。衆議院選挙では若者が私たちの質問状を自分の選挙の候補者に手渡してコミュニケーションをとる、というキャンペーンが行われ、テレビを含む多くのメディアに取り上げられました。

気候変動による影響の拡散：海面上昇

6月末に、地球温暖化による海面上昇がもたらす経済的影響を予測した報告書『2030年のアジア7都市における極端な海面上昇の経済的影響予測』を発表しました。それに先立って、2030年・2050年の日本での海面上昇シミュレーションマップや、日本の都市での浸水・冠水被害を表した3D動画を発表しました。

また、YouTuber 兼沖縄在住のお笑い芸人で31万人のチャンネル登録者をもつ、せやろがいおじさんとのコラボレーションで制作した海面上昇の動画「今、地球がどうなってるか知らない人たちに一言」も公開しました。

8月にはIPCC（気候変動に関する政府間パネル）が最新の報告書を発表し、グリーンピースはこの第6次評価報告書の第1作業部会報告書（自然科学的根拠）の主な論点をまとめた報告書や分かりやすく解説するブログなどを発表しました。グリーンピースはIPCCの公式オブザーバーであり、重要なレビューに参加しています。



海面上昇に関する報告書

- ・ 『2030年のアジア7都市における極端な海面上昇の経済的影響予測』（日本語抄訳版）
- ・ *The Projected Economic Impact of Extreme Sea-Level Rise in Seven Asian Cities in 2030*（英語原文）
- ・ 海面上昇シミュレーション・マップ（PC版、モバイル用）
- ・ 「海面上昇を抑える」署名サイト

IPCCに関する報告書

- ・ IPCC『自然科学的根拠』報告書 (AR6 WG1)の主な論点 (グリーンピース・ジャパン作成)



東電福島第一原発事故から10年

2021年は東京電力福島第一原発事故から10年となり、グリーンピースは事故直後から続けてきた放射線調査を報告書にまとめました。2020年秋に実施した放射線調査は、コロナ禍で小規模となりましたが、海外チームとの緊密な連携で、最新のデータ計測に成功しました。この放射線調査報告書に加え、外部識者と協力し、同原発の廃炉の道筋について分析した報告書も作成し、原発事故の過去、未来を俯瞰した2つの報告書を公表しました。日英韓中の4カ国語で行われた記者会見には、国内外から約50名の記者が参加し、グリーンピースの国際性を強く印象づけました。

科学的調査だけでなく、被災者の方々の肉声を集めたウェブサイトも作成しました。そこで浮かび上がったのは、事故は今も続いているということでした。2021年秋、調査チームは再び福島を訪れ、放射線調査を実施しました。グリーンピースは今後も、原発事故と原子力問題に注力を続けていきます。



© Christian Åslund / Greenpeace

特設ウェブサイト『写真と証言で綴る12人の10年 福島の記録』

放射能汚染水の海洋放出を止める

日本政府は、地元住民や国際社会の反対にもかかわらず、2021年4月、東京電力福島第一原発敷地内に保

管されている放射性物質を含む汚染水を太平洋に放出することを決定しました。グリーンピースは、政府発表の約15分後に、決定を非難する声明を素早く発表し、厳しいメッセージは世界中のメディアによって報道されました。

政府の方針決定を受け、東京電力は2023年の汚染水の海洋放出を目指し、準備を進めていますが、グリーンピースはその一挙手一投足を注視しています。東電が公表した環境影響評価書のパブリックコメントに、海洋放出の問題点を指摘する意見を提出し、IMO（国際海事機関）で海洋放出問題を提起するよう働きかけるなど、国内外で積極的な働きかけを行っています。



© Masaya Noda / Greenpeace

これらに加え、海洋放出によって生計の場を脅かされる地元の漁業者や、アジアや太平洋諸国の深い懸念を広く世の中に伝えることも重視しています。海洋放出の中止を目指し、最大限の努力を続けていきます。

日中韓の情報通信 (ICT) 企業の環境対策をランキング



© Sungwoo Lee / Greenpeace

2021年12月、日本、中国、韓国の情報通信 (ICT) 関連企業30社※を対象に、気候変動対策や再生可能エネルギー導入を評価、ランキングした報告書『ハイテク企業は再生可能エネルギー競争を勝ち抜くことができるか？ 日本、中国、韓国のハイテク企業の気候変動対策と再エネ使用状況を採点』を発表しました。

評価は「気候変動対策のコミットメント」「実施状況」「情報開示」「アドボカシー（政策提言等）」の4つの指標について行い、A+～Fでランク付けしています。日本企業はソニーのC+をはじめ上位3位を占めるなど、対象企業の中では概ね上位となりましたが、ソニーも再生可能エネルギーを利用している事業所は全体の10%にも満たないなど、改善の余地は大きいことがわかりました。

※ 対象とした日本企業はソニー、富士通、パナソニック、ルネサス エレクトロニクス、楽天、ソフトバンク、日立、東芝、ヤフー、キャノン

モーリシャス油流出事故 ～今企業に求められる責任とは何か～

2020年に発生した、モーリシャス沖で貨物船が座礁し、1,000トンの燃料をサンゴ礁の広がる海に流出させた事故は、企業の責任とは何かを改めて問うものでした。

発生から半年となる2021年1月、グリーンピースは座礁した貨物船を運行していた商船三井に、現地の状況や、再発防止への取り組みに関する**公開質問書**を送りました。約1カ月後、同社から回答がありました。残念ながら、再発防止策として、化石燃料の使用を段階的に廃止するという回答は得られませんでした。

グリーンピースは2月、この事故と企業の社会的責任に関連し、サステナビリティ・ブランド・プロデューサーである足立直樹氏と協力し、**フリーフィンギーパー**を発表しました。企業活動が社会や環境に対して与える影響が大きくなるのにあわせて、企業に求められる責任の範囲も大きくなってきていることを示すとともに、2050年にカーボンニュートラルの目標を達成していくために脱化石燃料が重要であることを伝えました。

事故から1年を経た8月には商船三井によるステイクホルダーラウンドテーブルに参加し、あらためて脱化石燃料の重要性を訴えるなど、事故後も継続して注視・関与しました。



© Rajiv Groochurn / Greenpeace

発行物・報告書

- ・ ブリーフィンギーパー『いま企業に求められる責任とは何か?』 2021年2月4日
- ・ 特設ウェブサイト『写真と証言で綴る12人の10年 福島の記録』 2021年3月4日
- ・ ブリーフィンギーパー『石炭火力発電におけるアンモニア混焼—高価で有害なJERAと日本政府の選択』 2021年3月27日
- ・ 報告書『東京都の再生可能エネルギー100%シナリオ～グリーン・リカバリーによる 脱炭素化ロードマップ～』 2021年6月8日
- ・ リーフレット『気候危機回避のための選挙アクションガイド』 2021年6月10日
- ・ 報告書『2030年のアジア7都市における極端な海面上昇の経済的影響予測』（日本語抄訳版） 2021年6月24日
- ・ 「IPCC『自然科学的根拠』報告書（AR6 WG1）の主な論点」（グリーンピース・ジャパン作成） 2021年8月12日
- ・ 報告書『Countdown to Zero』（ゼロへのカウントダウン） 2021年9月22日
- ・ 報告書『自動車ランキング2021』 2021年11月4日
- ・ 報告書『ハイテク企業は再生可能エネルギー競争を勝ち抜くことができるか?』 2021年12月2日
- ・ 報告書『日本の乗用車の脱炭素化によるマクロ経済および環境への影響』 2021年12月17日





Good Life

プラスチック 汚染を解決する 「リユース革命」

プラスチック汚染への取り組みは世界・日本においても不十分な状態が続いています。現在年間最大で1,200万トンのプラスチックごみが海に流れ出していますが、このまま何もしなければ2040年までに流出量が3倍にまで増えると言われていています。その上、仮に政府・企業が掲げているプラスチック対策がうまく達成されたとしても、流出は抑えられるどころか、2040年には、2016年と比較して2倍以上増えてしまうと報告されています。さらに、プラスチック汚染は海だけに限らず、ライフサイクル全体での深刻な影響が明らかになってきており、気候変動や陸上の汚染のほか、地域コミュニティの健康被害など、多岐に渡ります。

地球規模で起きているプラスチック汚染を解決するためには、プラスチックの生産そのものを大幅に減らす必要があります。そのために優先されるべきは「リユース（再利用）」の推進です。グリーンピースは、小売・消費財・飲食業界などが、使い捨てプラスチックの大量生産・消費によって資源を使い捨てるモデルから、資源を使い捨てないリユースの仕組みへ早急に移行するよう、働きかけています。

カフェ キャンペーン

2021年2月にスターバックスコーヒー ジャパン社（以下、スターバックス）が使い捨てプラスチックカップを紙カップに全国的に切り替えると発表したことを受け、同月グリーンピースでは緊急キャンペーン「スターバックスさん、プラスチックでも紙でもない、新しいリユースの仕組みを待っています！」を開

始しました。使い捨てカップを大幅削減するために、スターバックスに「リユース目標」の設定・リユースの仕組みの全国導入・店内でのリユース徹底などを呼びかけ、同社との対話を重ねてきました。

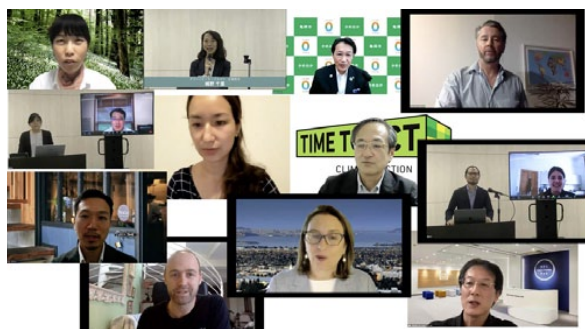


キャンペーンに賛同する市民の人数を伝えるだけでなく、賛同者から集まったメッセージを分析して提出しました。また、市民の声を伝えるための新しい方法として、大きな影響力を持つ気候アクティビスト、古着ショップDEPTの経営者、気候アクティビストeriさんに、賛同者を代表して企業との対話に参加してもらうなど、企業へより早い行動を促すキャンペーンを目指しました。

8月にはカフェ業界にリユースの導入を求める報告書『リユース革命～カフェ業界における脱・使い捨て容器に向けたソリューション～』を発表しました。スターバックスは11月に丸の内（東京都）でリユースカップの実証実験を開始し、同社の水口CEOは「リユース

の促進は重要な取り組みの一つです。誰もがカップを当たり前前に再利用するスタイルが、新たなスタンダードになる未来を目指し、リユースの選択肢を広げる挑戦を続けます」と述べるなど、変化が現れています。グリーンピースではスターバックスにリユースカップの仕組みを全国レベルで展開することを引き続き求めていきます。

多様なステークホルダーとリユース革命を日本に



大手企業によるプラスチック対策がリサイクルと代替素材への変更に偏っている中、より優先されるべきリユースの動きを加速させるため、5月には地球人間環境フォーラム（GEF）と協力し、国内外からリユース企業・自治体・財団などをゲストとして招いた「シンポジウム／リユース革命！容器包装で始まるサーキュラー・イノベーション」を東京都環境局と京都府亀岡市の後援のもと開催しました。企業・メディア・シンクタンク・自治体・市民など、800名以上の参加申し込みがあり、注目を集めました。同日、GEFと共同で制作したリユースビジネスを説明したウェブサイトを立ち上げました。また、2021年はメディアへの直接の情報提供にも力を入れ、リユースに関するメディア向けの勉強会シリーズなども実施しました。

プラスチックと気候変動

プラスチックと気候変動の繋がりについての指摘がますます増える中、多くの市民が「気候変動対策の一環としてプラスチックに取り組むべき」と考えていることが、グリーンピースの意識調査からも分かりました。11月に発表した報告書『気候非常事態をひもどくー消費財メーカーはいかにして石油大手によるプラスチックの生産拡大を促進しているかー』では、世界的な消費財企業と石油大手の繋がりを、サプライチェーン調査によって明らかにしました。また、両業界がこれまで「リサイクル」を目くらましとして利用しながら、使い捨て容器包装に依存したビジネスモデルを拡大してきた経緯などについても指摘しています。

また、世界規模で起きているプラスチック汚染についてより分かりやすく伝えるため、グリーンピース・

ジャパンが2020年に日本語字幕を担当したドキュメンタリー映画『The Story of Plastic』のオンライン上映イベントを、2021年は11回開催（主催・共催・登壇含む）し、映画を通じてメディアなどを含めた約660名の方々に問題の緊急性を訴えました。



© Made Nagi / Greenpeace

ごみを出さないお買いものマップ「グッバイ・ウェイスト」の公開

「買い物時の使い捨ての容器包装や付属品に関する意識調査」の結果を発表し、使い捨ての袋や容器、付属品などについて「不要」「使いたくない」「選びたくない」と考える人が全体の4割を超えること、リユースサービスについて「使ってみたい」人が56.4%で過半数を占めたことを明らかにしました。

同時期に、使い捨ての容器や包装なしでお買い物ができるお店を探したり登録できるオンラインマップ「グッバイ・ウェイスト」を公開。これまでテレビやラジオ、雑誌など多数のメディアに掲載されました。マップには全国1,400店舗以上のスポットが登録されています（2022年2月時点）。



使い捨ての容器や包装なしでお買い物ができるお店を探したり登録できるオンラインマップ「グッバイ・ウェイスト」の公開を記念したイベントを開催しました。公開記念イベントでは、ボランティアメンバーが実際にマップを利用した感想などを参加者に共有しました。

10月には、**グッバイ・ウェイスト公式インスタグラム**を開設、ボランティアメンバーが、マップに掲載されている全国のお店を写真付きで紹介しています。アカウント開設から4カ月で約400名フォロワーが増えました。

- ・ 5月：「**買い物時の使い捨ての容器包装や付属品に関する意識調査**」の結果を発表
- ・ 5月：ごみを出さないお買いものマップ「**グッバイ・ウェイスト**」マップ公開
- ・ 5月：リユースについて学べる特設ウェブサイト「**使い捨てない社会へ リユース革命!**」公開
- ・ 通年：映画『The Story of Plastic』オンライン上映イベントを11回開催（主催・共催・登壇含む）計660名参加

大量生産・消費から脱却し生物多様性を守る

刺されると強い痛みが生じアナフィラキシーショックを引き起こすこともあるヒアリや、デング熱をはじめとする感染症を媒介するネッタイシマカなど、日本各地ではさまざまな危険生物の目撃が相次いでいます。外来生物や感染症のリスクを専門とする国立環境研究所の五箇公一氏は、その一因は、現代の大量生産・

消費を支える行き過ぎたグローバル経済だと指摘します。五箇氏の監修の元、そうした身近に迫る危機を伝え、私たちのライフスタイルを循環型の地産地消へ近づけることを勧めるキャンペーンを展開しました。

消費の中心地ともなっている東京・渋谷では、過度なグローバル経済や温暖化によって、健康や社会生活に危害を及ぼす可能性のある生物が私たちの生活圏に入り込むようになっていることをユーモアを交えて伝えるために、「あなたたちのおかげで、日本でも暮らせるようになった」と、ヒアリが人間に感謝する、巨大な「感謝の手紙」を掲出しました。



発行者・報告書

- ・ 「**買い物時の使い捨ての容器包装や付属品に関する意識調査**」
2021年5月25日
- ・ 報告書『**リユース革命～カフェ業界における脱・使い捨て容器に向けたソリューション～**』 2021年8月23日
- ・ 報告書『**気候非常事態をひもとくー消費財メーカーはいかにして石油大手によるプラスチックの生産拡大を促進しているかー**』
2021年11月9日





Global Campaign

より良い未来を 50年間 求め続けて

半世紀前に活動を始めたグリーンピース。今では世界55以上の国と地域に拠点をおき、グローバルなネットワークを活かし、地球規模で起きている環境問題の解決に取り組んでいます。

気候変動が進むと、異常気象が以前よりもさらに頻繁に起こるようになると警告される中、2021年も世界中で異常気象が多発しました。7月は世界平均気温が**142年間の観測史上で最も暑い7月**となり、アメリカやカナダ、ロシアや北極圏まで**記録的な熱波**が発生しました。カリフォルニア、地中海、シベリアなどで深刻な森林火災が発生し、ドイツでも大規模な洪水が起こりました。オーストラリア、インド、中国でも洪水が発生、日本でも7月には豪雨によって静岡県・熱海市で土石流が発生し、8月には記録的な大雨で多くの方々が被害に遭われました*。

気候危機がまさに世界規模で拡大しているのと同様に、海洋汚染は海流によって地球全体に広がっています。環境問題には国境はありません。グリーンピースはこれからも世界規模で起きている危機に対して、世界中の人々とともに各国の政府や企業への働きかけを続けます。

2030年までに地球上の陸と海の30%を保護する国際目標に日本が初参加

地球の70%を覆う海には、CO2を吸収し、気候を安定させる働きがあります。しかし、過剰漁業や資源採掘、プラスチック汚染によりその生態系は脅かされています。グリーンピースは2030年までに公海の30%

を海洋保護区とする取り組みを、2019年から世界各国で展開してきました。全世界から集まった350万人を超える人々の賛同の声を元に、各国政府への働きかけを行ってきました。グリーンピース・ジャパンでも、モデル・気候アクティビストでオーシャンアンバサダーの小野りあんさんと共に、**賛同する人々の署名**（当時8,245筆）を環境省に提出しました。

そして、当初はこの保護目標を支持できずにいた日本政府が、2021年1月に、陸上と海洋の生態系のそれぞれ最低30%を保護するという目標をかかげる連合に参画し、**30%の保護目標を初めて公式に支持**しました。

これは極めて重要な一歩です。これから日本が、世界のリーダーの一員としての責任を果たし、2030年までに陸と海の30%を保護するための条約を実現するよう、グリーンピースの世界的なネットワークを活かし、今後も働きかけを行っていきます。

コカ・コーラなどの大手メーカーへリユースへの転換を求める

国際的な脱プラスチックネットワーク「Break Free From Plastic」が実施する調査で、45カ国の海や川を汚染するプラスチックごみをブランド別に調べた結果、4年連続で2021年もコカ・コーラのごみが最も多く見つかりました。その他にはペプシコやネスレも「世界をプラスチック汚染している企業」ランキングで、毎年トップにランクインしています。

グリーンピースは、コカ・コーラ、ペプシコ、ネスレ、ユニリーバへ「プラスチック危機の原因ではなく、解決の立役者になって」と働きかけを続けています。世界700万人がすでにこのキャンペーンに賛同して署名しており、日本からも大手メーカーに期待の声を届けるため、グリーンピース・ジャパンでは国内での働きかけを始めました。



© Tim Aubry / Greenpeace



50th Anniversary

グリーンピース
は、50周年を
迎えました

2021年9月15日、グリーンピースが世界で誕生して50年を迎えました。世界中にいる何百万人ものボランティア、寄付をしてくださるみなさま、そして支えてくださるみなさまによって支えられてきたおかげです。核実験を止めようと12人で始まったグリーンピースは、今では世界55以上の国と地域で活動し、有給職員約3,532名が働く環境保護団体に成長しました。科学的根拠に基づいた確度の高い提案と、徹底した現場主義を軸に、“行動するNGO”としてこれからも私たちは、地球の恵みを100年先の子どもたちに届けるため、世界中の方々とともに活動していきます。

設立50周年記念イベントを開催

グリーンピース・ジャパン アンバサダーの武本匡弘さん、四角大輔さんとともに、50周年記念イベント「暮らしと社会とビジネスを変える：環境アクション/アクティビズム」を開催。一人ひとりが、暮らし、会社、そして社会のなかで気候危機を回避するために取り組めることをテーマに、約250名が参加する大盛況のイベントとなりました。平和、気候危機、若者の未来などのキーワードがグリーンピースの役割とどうつながっていくのか、50周年の取り組みを振り返りつつ、これからの50年を考えました。アンバサダーの2人だからこそ語れるお話、未来へのアイデアがたくさん生まれた時間となりました。



武本さん、四角さんがアンバサダーに就任してから一年。2人を通して初めてグリーンピースを知った人、イベントを通して初めて寄付をした人など、たくさんの新しいつながりが生まれた一年間となりました。

グリーンピース・ジャパンの新ビジョンを策定

50周年を機に、グリーンピース・ジャパンのミッション、ビジョン、スローガンを新たに策定しました。



スローガン

「未来を考え、今日、動く」

ビジョン

地球の恵みを、100年先の子どもたちに届ける。私たちが目指すのは、地球という生命の揺り籠が与えてくれる「多種多様な恵み」を、次の世代へと手渡しつづけられる暮らしを、一人ひとりが実践している社会の実現です。100年、200年、そして1000年先の未来に生きる人々に、今日の私たちと同じように、この星を「美しい」と思ってもらうために。私たちは、今を生きる地球人としての責任を果たしていきます。

ミッション

自然を守り、命を守り、私たちの未来を守る。「地球に良いこと」が特別なことではなく、日々の暮らしやビジネス、あるいは政策決定の場で、当たり前のように

に実践されていく。そんな社会を実現するために、グリーンピース・ジャパンは、科学的根拠に基づいた確度の高い提案と、徹底した現場主義を軸に、「行動するNGO」として環境への想いを同じにする日本中の人々と共に、気候変動に脅かされることのない多様で平和な未来を目指します。

「グリーンピース・ジャパン NEXT 100 Project」始動

50周年という記念すべきこの年を、グリーンピース・ジャパンとして、過去を振り返るだけでなく、この先の未来を見据えるために使うべきだと考え、今から100年後、思い描く理想の未来へ辿り着くために、私たちは次の1世紀をより力強く、より情熱的に突き進んでいけるよう、「グリーンピース・ジャパン NEXT 100 PROJECT」を始動させました。グリーンピース・ジャパンの思い描く未来や存在意義を、もう一度自らに問い直すと共に、その答えを自分たちの価値として積極的に発信していくことで、より良い未来と一緒に創造していける仲間を一人でも多く増やしていきます。



ボランティア & インターン



オンラインツールを活用し、協力して企画・発信

2021年春に開始した署名「スターボックスさん、プラスチックでも紙でもない、新しいリユースの仕組みを待っています！」に集まった2,400人あまりのメッセージを、ボランティアで集計・分析し、どのようなメッセージが集まっているかをまとめた資料を作成し、スターボックスさんに届けました。また、5月に公開したごみを出さないお買いものマップ「グッバイ・ウェイスト」の公開前準備として、全国の量り売り店やマイ容器対応店などを調べ、一覧にまとめました。

毎月ボランティア向け勉強会を企画運営するチーム「Side by Side」は、使い捨てプラスチックや食品ロス、ファッションなど様々なテーマで勉強会を行い、ボランティアメンバーが幅広く環境問題について学べる機会を作りました。お肉の消費量を減らすレスミートを発信するチームプランツは、工業型畜産と森林破壊の関係や、気軽にできるベジレシピを紹介するイベントやSNS発信を行いました。年間を通して、各ボランティアチーム主催で計14回のイベントを開催することができ、400人近くの方が参加しました。

気候危機のリスクを考え有機農業を続ける農家の方へインタビューを行い、その思いを記事にして発信しました。また、「気候危機を止めよう！アクションガイド」を作成し、気候危機に対して何かしたいと思う人々の気持ちに応えました。グリーンピース・ジャパンが事務局を務める「ゼロエミッションを実現する会」においても、インターンはイベントの運営サポートや

東京都議会選挙や衆院選挙の候補者アンケートを実施・集計するなど、主要メンバーとして活躍しました。

オープンボランティア勉強会「プラスチック汚染解決への新たな取り組みを学ぼう！」

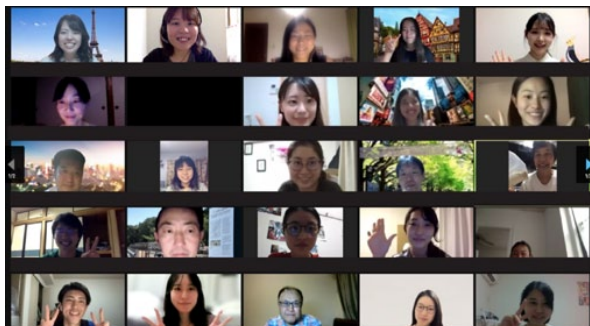


2月には、Side by Sideチーム主催でボランティア以外の方も参加ができるオープンボランティア勉強会「プラスチック汚染解決への新たな取り組みを学ぼう！」を開催しました。リユース可能容器を使用したショッピングプラットフォーム「Loop (ループ)」のアジア太平洋統括責任者である、エリック・カワバタさんをお招きし、プラスチックごみ問題の解決策について参加者の皆さんと一緒に学びました。

プラフリートリップ ~世界のエコを学びながら旅行気分を味わおう~ 開催

7月には、大学生のチーム「プラフリー大学」主催で「プラフリートリップ~世界のエコを学びながら旅行

「気分を味わおう」を開催しました。留学が中止になるなど、海外へ行けない時期だからこそ、海外旅行気分ですべての「プラスチックフリー」な取り組みについて楽しく学べる機会を作りたい、という思いで企画されたイベントです。各地の取り組みをクイズ形式で紹介したり、実際に海外滞在経験のあるゲストを招いてトークを行いました。



グッバイ・ウェイスト 公開記念イベントを開催

使い捨ての容器や包装なしでお買い物ができるお店を探したり登録できるオンラインマップ「グッバイ・ウェイスト」の公開を記念したイベントを開催しました。

公開記念イベントでは、ボランティアメンバーが実際にマップを利用した感想などを参加者に共有しました。10月には、グッバイ・ウェイスト公式インスタグラムを開設、ボランティアメンバーが、マップに掲載されている全国のお店を写真付きで紹介しています。アカウント開設から4カ月で約400名フォロワーが増えました。

アンバサダー 地球の未来のために 多様な人々と一緒に

新型コロナウイルス感染症によって多くの活動が制限された一年でしたが、オンラインを通してたくさんの方々と一緒に、様々な方法で社会システムを変える活動に取り組まれました。影響力のある方々との協働を通して、グリーンピースだけでは届けられないメッセージを幅広い人々に届けることができました。

原発事故からの10年を想像し直す

東電福島第一原発事故から10年を振り返るグリーンピースのイベントに、辻信一さん（文化人類学者）が登壇し、大河原多津子さん（福島県郡山市出身）と一緒に、それぞれの10年間の振り返り、そしてこれからの10年をともに考えました。



文化人類学者・アクティビストとして、社会運動や環境運動を牽引してきた辻さんから、「原発と民主主義は相容れない。若い人たちは、いままで現実的だと言われていることを全部疑ってみる。そういう勇氣を持っていただきたいです。みなさんが新しい現実を作ればいいんです!」と力強いメッセージを発信しました。

デジタル絵本を活用して親子で環境教育

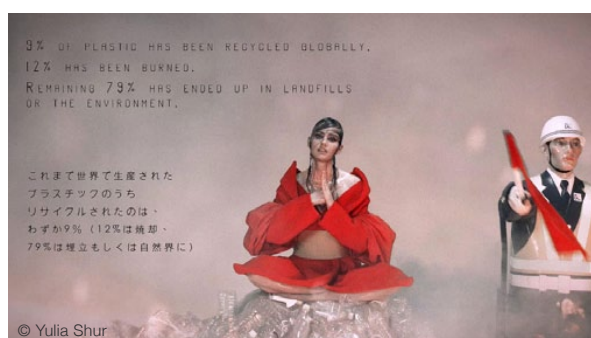


この絵本は、学生インターンの「自分たちが小さい頃、環境教育があまりなかった」「もっと早く環境問題について知りたかった」という思いをもとに発案・制作


されました。子どもに環境問題について伝える**デジタル絵本**のナレーションには、この企画趣旨に賛同した水沢アリーさん（起業家）が協力しました。愛らしいキャラクターの物語を通して、親子で環境問題について話すきっかけになる絵本ができあがりました。

音楽を通した新しいコラボレーション

使い捨てプラスチック汚染をテーマにした楽曲「#meburn」を通して、Rhymeさん（アーティスト）がグリーンピースのリユース・レボリューションキャンペーンに賛同し、リスナーにキャンペーン参加を促しました。プラスチック汚染の事実を、独特の世界観と音楽で伝える新しいコラボレーションとなりました。



企業との対話に新しい風を



© Kisshomaru Shimamura
eris さん

「今日はスターバックスさんに皆さんの声を代表して届けてきました。スターバックスが変わったら、世の中が大きく動くと思います。地球資源を使い捨てない社会に向けて、日本のスターバックスにも世界の先進事例に並ぶような高い目標を立ててほしいです。私たち市民ひとりひとりの環境問題へのアクションももちろん重要ですが、同時に進む方向を示してくれるリーダーが必要です。『持ち歩く』というカルチャーを世界に広めたスターバックスが『どう持ち歩くか』という新しいカルチャーを私たちに広め、次の社会のあり方へ導いてくれることを期待します！」

スターバックス コーヒー ジャパンに返却式リユースカップの仕組み導入を求めるキャンペーンで継続的に行われてきた企業対話に、キャンペーンに賛同するerisさん（古着ショップDEPTの経営者、気候アクティビスト）が参加しました。署名参加者から寄せられたコメントや、erisさんの元へ直接寄せられた、リユース

システム導入への期待のコメントなどを**対話の場で代弁**しました。多様な視点で企業との対話を進めていくことで、より意義深いコミュニケーションにつながりました。

気候アクションのためにつながる、仲間を見つける

モデル、気候アクティビストとして活躍する小野りりあんさんが、海面上昇を悪化させないための気候キャンペーンイベントに登壇しました。自身も「ゼロエミッションを実現する会」のメンバーとして活動する小野さんは、仲間をみつけて、協力することの大切さを語りました。70名を超える方々が参加し、励まし合いながら気候アクションへの団結を強めていく時間となりました。



© Noriko Hayashi / Greenpeace

会計報告

グリーンピース・ジャパンの2021年度（1月～12月）における財務報告書は、日本の「一般に公正妥当と認められる監査の基準」（J-GAAS）に準拠して作成され、SCS国際有限責任監査法人により会計監査を受けたものです。2021年度は昨年に引き続き、本部であるグリーンピース・インターナショナルに加え、グリーンピース・東アジア、および個人基金等からも人的・資金的な支援を得て、独立した国際環境NGOとして地球規模の環境問題に関する啓蒙活動を行い、持続可能でグリーンで平和な未来のための提案を行いました。

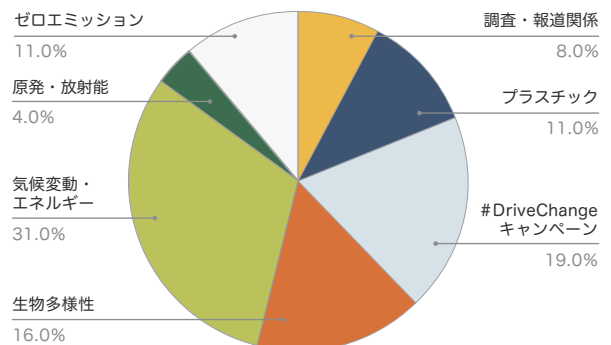
2021年は気候変動問題、再生可能エネルギー、ゼロエミッション、Drive Change（自動車の脱炭素）、原発・放射能問題、生物多様性、プラスチック問題などに精力的に取り組みました。また、グリーンピース・東アジアとの連携を強化するため、内部の組織変更を実施しました。これにより、世界各地で活動する国際環境団体としての本来の強みをより生かし、国境を超えて影響を及ぼす環境問題に対し、これまで以上に素早く、効果的な活動を進められるようになりました。

2021年度、寄付およびグリーンピース・インターナショナル（本部）、グリーンピース・東アジアからの支援が増え、グリーンピース・ジャパンの総収入は前年度の2億6800万円から6500万円増え、3億3200万円となりました。寄付金の総額は前年度から1360万円（8%）増えました。また本部、グリーンピース・東アジアからの支援は前年度から5100万円（53%）増えました。

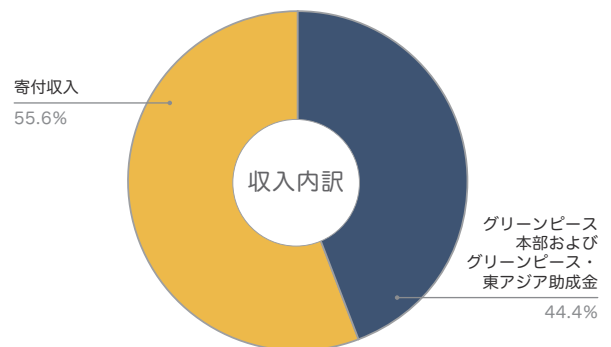
総支出は、新規キャンペーン活動、エンゲージメント、デジタル・ファンドレイジング、組織力強化の分野での投資があったため、前年度より1億500万円（33%）増加しました。2021年の総支出は4億2200万円でした。

グリーンピースは企業や政府から一切の資金援助を受けていない国際環境NGOです。この独立した立場を保つには個人からのご寄付が不可欠です。2021年度も、皆様の支えのおかげで、気候変動を食い止め、地球の恵みを100年先の子どもたちに届けるための活動を続けることができました。“行動するNGO”として、世界中の方々と協働しながら調査活動を行い、科学的根拠に基づいた提案をもって企業や政府に働きかけ、メディアやサポーターさんをはじめとした多くの方への情報提供を行うことができました。グリーンピースの活動を支えてくださった多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

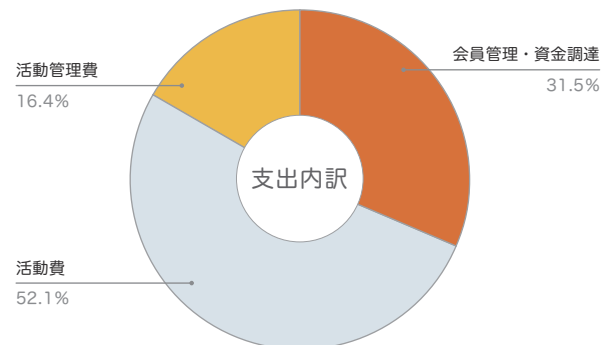
2021年 活動内容別 内訳



2021年 収入内容 内訳



2021年 支出内容 内訳



収支計算書（2021年1月1日～12月31日）（単位：円）

収入	2021年	2020年
寄付金収入		
継続寄付	115,106,194	102,117,420
新規寄付	15,258,560	11,449,005
財団、遺贈寄付	54,345,206	57,504,525
寄付金収入 合計	184,709,960	171,070,950
助成金収入		
*GPI/GPEA助成金	147,600,000	80,856,186
グリーンピース支部助成金	0	15,607,610
助成金収入 合計	147,600,000	96,463,796
その他収入	0	13,562
収入 合計	332,309,960	267,548,308

活動費用・活動支出	2021年	2020年
会員管理・活動報告・資金調達費		
サポーターケア & ディベロップメント	10,593,769	11,492,701
新規寄付アウトリーチ	71,909,651	66,070,269
財団、遺贈寄付	3,568,354	3,230,228
サポーターデータベース & コーディネーション	1,994,090	4,760,704
人件費	44,621,513	40,899,432
会員管理・活動報告・資金調達費 合計	132,687,377	126,453,334
プログラム事業費		
グッドライフ	6,695,180	3,451,939
気候・エネルギー	92,487,358	16,857,224
広報・コミュニケーション	3,458,283	1,633,197
ブランディング・アウトリーチ	1,898,572	0
エンゲージメント	25,371,614	18,232,840
プログラムコーディネート	3,641,416	686,783
人件費	86,848,222	83,745,736
プログラム事業費 合計	220,400,645	124,607,719
管理費		
管理・諸経費	23,791,452	23,698,905
管理人件費	45,107,376	41,857,643
管理費 合計	68,898,828	65,556,548
グリーンピース拠出金		
GPIへの拠出金	0	7,017,000
支部への拠出金	0	772,915
活動費用・活動支出 合計	421,986,850	324,407,516

* GPI：グリーンピース・インターナショナル（本部）
GPEA：グリーンピース・東アジア

※ グリーンピースは脱化石燃料と脱原発、そして再生可能エネルギーへシフト加速を株主の立場でも求めるために、株主総会への参加・議決権行使などを目的として、東京電力およびトヨタ自動車の株式を最小単位で購入しています。

活動収支	-89,676,890	-56,859,208
活動外収益		
受取利息	550	338
保有株式売却益	339,153	0
雑収入	0	2,946,629
活動外収益 合計	339,703	2,946,967
活動外費用・活動外支出		
純為替差損	0	633
保有株式評価損	15,910	14,975
活動外費用・支出 合計	15,910	15,608
税引前 収支	-89,353,097	-53,927,849
税金等	70,000	70,000
税引後 収支	-89,423,097	-53,997,849

貸借対照表（2021年12月31日現在）（単位：円）

資産	2021年	2020年
流動資産		
現金および預金	78,016,220	152,583,091
DDおよびCC未収入金	11,061,738	10,077,842
その他	1,934,917	1,359,153
流動資産 合計	91,012,875	164,020,086
固定資産		
有形固定資産	902,416	1,075,402
無形固定資産	648,720	1,106,640
投資有価証券	29,700	404,685
その他 資産	538,000	530,000
固定資産 合計	2,118,836	3,116,727
資産 合計	93,131,711	167,136,813

負債	2021年	2020年
流動負債		
未払金	44,636,322	24,712,012
有給休暇引当金	7,301,736	6,891,869
預り金	160,122	64,970
GPI/GPEAへの未払金	1,937,577	6,948,911
流動負債 合計	54,035,757	38,617,762
固定負債		0
負債 合計	54,035,757	38,617,762

正味財産	2021年	2020年
期首正味財産	128,519,051	182,516,900
当期収支 差額	-89,423,097	-53,997,849
正味財産 合計	39,095,954	128,519,051

負債・正味財産 合計	93,131,711	167,136,813
-------------------	-------------------	--------------------

グリーンピース・ジャパン 概要

【名称】 一般社団法人 グリーンピース・ジャパン

【所在地】 〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-13-11 NFビル2F

【設立年月】 1989年4月

【代表者】 代表理事：青木 陽子、寺中 誠

【事業対象分野】 地球環境保護（気候変動／エネルギー／原子力問題、海洋生態系保護、農業問題、有害物質問題、森林問題等）

【活動対象範囲】 全世界

【組織の目的】 地球規模の環境破壊を止めること

【具体的な活動手法】 ＊ 環境破壊の実態を科学的に調査・分析し公表 ＊ マスメディア、市民メディア、会員への情報提供

＊ 環境破壊を止めるための行動の呼び掛け ＊ 環境破壊の現場に行き、抗議活動 ＊ 政府・企業などへの提案・要請

＊ 環境問題を解決に導くための代替案の提示 ＊ 国際条約の交渉過程を監視、提言

【方針】 非暴力行動・政治的独立・財政的独立

【会員】 約8,369人（国内）、約300万人（世界全体） ※2021年12月時点

【事務局】 国内有給職員 36名（うち、時間給制職員9名） ※2021年12月時点

【本部所在地】 オランダ・アムステルダム（有給職員約3,532名） ※2021年12月時点

世界に広がるグリーンピース

日本を含む世界55以上の国と地域を拠点に活動を展開しています。



グリーンピースをご寄付でご支援ください

グリーンピースの活動はすべて、個人のご寄付のみに支えられています。あらゆる命と未来をまもるため、ぜひサポーターのひとりに加わっていただけませんか。

あなたのご寄付が、世界中で起こっている環境破壊を解決に導きます。

ご寄付はインターネット・スマートフォンでお申込みいただけます。



03-5338-9810

supporter.jp@greenpeace.org

国際環境NGO グリーンピース・ジャパン

GREENPEACE

〒160-0023 東京都新宿区西新宿8-13-11 NFビル2F Tel. 03-5338-9800 Fax. 03-5338-9817

www.greenpeace.org/japan



@GreenpeaceJP



GreenpeaceJapan



greenpeacejp